

# 令和2年度 宮崎県立高千穂高等学校 学校関係者評価表

## 校訓

大道を歩む

鍛練・協調・奉仕

### <学校経営ビジョン（目指す学校像）>

- (1) **生徒の学力向上と多様な進路希望を実現できる学校**  
高い目標を掲げ、努力を惜しまず活動を続け、たくましく生きる力を備えた生徒を育成し、生徒の進路を実現できる学校
- (2) **生徒一人一人の個性を伸ばすとともに、仲間を支え合う学校**  
他者を理解し共感する感性を高め、良好な人間関係が築ける学校
- (3) **学校、家庭、地域社会との連携・協働・共育を推進し、信頼される学校**  
地域に信頼され、高千穂高校に行きたい、通わせたい、応援したいと思われる学校
- (4) **教職員が授業を中心とした質の高い教育活動に専念できる学校**  
教職員一人一人が自分の働き方を見直すとともに、ワーク・ライフ・バランスのとれた生活を実現し、健康でいきいきと自身の能力を発揮できる学校

### <高千穂ブランド>

- (1) 夢や希望に向かい粘り強く努力し、人生を切り拓く高千穂高校生
- (2) 礼法指導が徹底している高千穂高校生
- (3) 服装・身なりが端正で、清掃がきちんとできる高千穂高等学校
- (4) ボランティアや地域との交流に取り組み、地域に貢献する高千穂高校生

# 令和2年度 学校関係者評価表

宮崎県立高千穂高等学校

No. 1

<重点目標と主な達成手段>

A：充分達成（80%以上）

B：ほぼ達成（79～60%）

C：やや不足（59～40%）

D：かなり不足（39%以下）

評価項目 評価指標・目標	主な取組	成果・課題・改善策	自己評価	学校関係者評価コメント	評価	
<b>1 学力の向上</b>  ①分かる授業 ・授業評価の実施  ・研究授業、互見授業、 ・「主体的・対話的で深い 学び」の実現に向けた授業 改善  ②基礎学力の定着 ・学び直し ・漢字テスト  ③自学自習できる力の育成  ④学力を補完する指導 （読書・小論文・面接・資格 取得等）  ⑤進路希望の実現 ・進学希望者の進学達成率 95%以上（国公立大学合 格者数増含む） ・就職希望者の就職達成率 100%	①	1 授業評価の実施（12月） 2 授業公開週間（10/12～10/16） 3 初任者による研究授業	○システムによる評価一斉入力 で教科担の負担を軽減した。 ○多くの見学者に来校いただいた。 上記2点の指摘を授業改善に 繋げていきたい。 ●今後は整備が進められてきた ICT環境を活用した授業の研究が 課題である。	B	◎進路に対する動機付けを徹底的に 強化すると生徒は今以上にやる 気になり底力を発揮すると思 います。  例) 国立大学でなにを学ぶ？ 私立ではダメなの？  ◎他校との交流により刺激や意 識を持つことは、今後の学習の 大きな励みに繋がり、継続的な 取り組みを期待したい。 ICT環境の整備により、教育現場 の負担が増すことから、支援員 の配置など、人的なサポートが 必要ではないかと思われる。  ◎ICT関連整備が急速に進んだ ことに対し、来年度以降、ICT を活用した様々な取り組みに 期待します。  ◎>>●ICT環境は徐々に整 えられてきているが、オンライ ン授業や対面授業におけるICT 活用は、まだ端緒についたば かりである。来年度以降研修 を重ねていく必要がある。 ICT環境の整備や一部オンライ ンでの取組も実践されており、 ICTを活用した取組は徐々に進 んでいると思われる。しかしな がら、高千穂高校に限ったこと ではないと思われるが、まだ ICTの活用の余地は多くある と思われる。ICTはあくまでも 手段であり、まずは、近隣の 五ヶ瀬中等教育学校との連携 や、LABOを中心とした取組 など、既存の取組にICTをい う手段を付け加え、できることか	
	②	1 行事予定の変更（夏休みの短縮） 2 ICT活用教育の推進	○コロナによる臨時休業による 授業の不足分を夏休みの短縮等 である程度は補えた。 ●ICT環境は徐々に整えられて きているが、オンライン授業や 対面授業におけるICT活用は、 まだ端緒についたばかりであ る。来年度以降研修を重ねて いく必要がある。	C		
	③	1 可能な限りの代替え授業 2 自宅学習時間の充実 ・課題の出し方の工夫 3 熊大高千穂塾・西臼杵パ ーラーアップセミナー ・進路意識の高揚	○コロナによる出張の中止や リモート研修の普及で昨年より 授業時間が確保できた。 ●課題への取り組みは改善が 必要である。  ○内容を変更しオンラインでの 実施となったが、刺激を多く 受け進路意識の高揚が図れた。	B		
	④	1 朝読書の定着に向け、各HR での指導徹底と巡回指導の実 施 2 各教科への図書持ち出し 管理の許可 3 図書館の利用促進	○朝読書の取り組みは概ね良 好で、落ち着いた学校始業が 定着しつつある。 ○教科ごとに必要な図書を 特別教室で管理し、活用でき るように管理方法を見直した。 ●新刊図書の紹介や移動図書 館など取り組んでいるが、利 用者増に結びついていない。	B		
	⑤	1 小論文・面接指導 ・進学及び就職の各受験者に 担当職員を割り当て全職員で 指導	○1月現在の進路実績 ・進学内定者58名のうち推 薦入試による国公立大学の合 格者が3名。 ・今後21名が受験予定。 ・就職希望者24名のうち2 2名が内定。 ○小論文・面接の指導には全 職員の協力が得られた。 ●放課後の指導になることが 多く、職員の勤務時間との 兼ね合いが課題である。	B		

				<p>ら取組を実施すること好ましいと考える。</p> <p>&gt;&gt;●放課後の指導になることが多く、職員の勤務時間との兼ね合いが課題である。 指導実績のある専門家にそれらの指導の一部を業務委託することも検討できるのではないかと。職員の勤務時間の改善及び、外部指導者の参画することで、より多角的な視点での指導が可能になると思われる。(業務委託の事例は国内の公立高校でも確認されている)</p> <p>◎ICT活用推進が喫緊の課題となると思いますので、ぜひ研究を進めてください。今年度はコロナ渦の影響で大変なことも多かったと思いますが、学習はしっかりと進んでいるようで相当工夫されたと思います。お疲れ様でした。</p> <p>◎コロナの影響により限られた中での授業や行事のやりくり等を工夫しながらされていたのがうかがえる。引き続き学年末までお願いします。</p>
--	--	--	--	---

令和2年度 学校関係者評価表

宮崎県立高千穂高等学校

No. 2

<重点目標と主な達成手段>

A：充分達成（80%以上）

B：ほぼ達成（79～60%）

C：やや不足（59～40%）

D：かなり不足（39%以下）

評価項目 評価指標・目標	主な取組	成果・課題・改善策	自己評価	学校関係者評価コメント	評価	
<b>2 高千穂ブランドの醸成</b>  ①キャリア教育の推進 ・「未来探究」、各種講座 ・大学との連携 ・G I A H S教育の推進  ②総合的な探究の時間の推進  ③面談の充実  ④部活動の活性化 ・文武両道  ⑤礼法指導の徹底 「あいさつ日本一に」  ⑥師弟同行の清掃 「清掃日本一に」  ⑦ボランティア活動の推進  ⑧生徒の地域貢献日本一	①	1 G I A H S教育 ・G I A H Sアカデミーの活動 地域情報誌取材執筆、小中学校出前授業、各種発表 2 進路関連行事 ・校内普及活動、シンポジウム参加 ・大学出前授業(10月) ・インターンシップ(11月) ・小論文対策講座(9月)	○コロナによる制約を受けながらも活動の質は昨年より高まった。特に対人折衝、I C T活 用の面で十分な経験を得つつある。 ●一部の生徒の活動が中心で、学校全体への普及促進には、カリキュラムへの組み込みが必要である。 ●コロナ禍によりいずれも中止となった。3学期に代替講座も計画したが実施できなかった。 ○3年生の希望者25名が参加した。	B	◎良い取り組みを行っているが情報発信が弱い。地域とのキャッチボール（情報交換）が弱い。良い意味でやりっぱなし。生徒に自主性を持たせ、PDCA サイクルをまわせるよう職員・外部の地域の方々の助言が必要かと思います。  ◎地域への貢献活動として、生徒が自ら考え行動する姿勢が随所で見受けられた。若いチカラをこれからも地域活動のなかで発揮してほしい。  ◎コロナ禍での取組の推進に苦慮された面が多くあったと思いますが、そのような状況の中でも、代替の事業を計画するなど、できることを実施されたことは高評価に値すると思えます。今年度の経験を次年度以降の取組にぜひ生かしていただきたいと思えます。  ◎>>●一部の生徒の活動が中心で、学校全体への普及促進には、カリキュラムへの組み込みが必要である。  地域探究活動、ボランティア、部活動などは、今年度も生徒達の熱心な取組により、かなりの成果を得ていると思われる。また、あいさつの面でも町内外を問わず、高千穂高校生は挨拶をしてくれる、という良いイメージが定着している。 しかしながら、各学年、各個人の取組は充実した活動を行って	
	②	1 総合的な探究の時間テーマ ・1年生…「地域のために」 ・2年生…各自設定して活動	○生徒が主体的に協働する時間になった。 ○地域からの多くの協力を得ることが出来た。 ●コロナ禍により発表会が校内のみになり、校外活動も制限されるなど大きな影響が出た。 ●準備の時間確保や職員間の連携が課題	B		
	③	1 二者、三者面談の充実	○学級担任を中心に計画的・効果的な面談が実施された。	A		
	④	1 部活動生集会を開催（各学期1回） 2 各活動場所での部顧問による指導 ・生活指導を基本として、学習指導、技術指導を実施	○毎日の顧問による指導や定期的に行う部活動生集会等を通して、技術指導だけではなく、生活指導・学習指導を行い、部活動を行う意義を伝えることが出来た。 ○高校総体の代替大会において、剣道部が男女で個人・団体で優勝することができた。	A		
	⑤	1 礼法指導週間の計画的実施 2 全校集会時の礼法指導実施 3 授業開始と終了時の黙想・礼法指導	●全校集会の始めに礼法指導を行う予定ではあったが、全校集会を開くことができなかったため、例年通りの指導できなかった。 ○毎月予定されている礼法指導週間では、朝のSHR で生徒が前に立ち、生徒主体で礼法指導を行った。これを校内だけではなく、校外でも出来るようになることが目標である。	B		
	⑥	1 職員も一緒に清掃に取り組む 2 定期的に清掃強化週間を設定	○始まりと終わりには礼法指導も取り入れ、職員・生徒で積極的に清掃に取り組み、校内の美化に努めることが出来た。	A		
	⑦	1 町内の祭りボランティアに参加 2 朝の見守り活動に全校生徒が参加	●今年度は、行事の中止や自粛を呼びかけたこともあり、思うような活動ができなかった。 ●今年度は朝の見守り活動は実施できなかった。	C		
	⑧	1 まちなか観光案内活動 2 生徒による自主ボランティア組織	○コロナ禍の影響を大きく受けた中でも、それぞれ数回の活動を実施できた。観光ガイドや町内施設の整備・清掃など生徒の自主的な企	B		

		<p>画 ・立案による地域貢献活動ができた。</p>		<p>るように思われるが、学校全体への普及を促進するために、3年間を通しての全体カリキュラムの設計が必要だと思われる。先般の高千穂高等学校魅力向上推進委員会の設立を受け、高校を支援する機運は高まりつつあると思われるため、行政や地域と連携したカリキュラム設計の検討を進めて欲しい。また、それらの活動や成果を対外的に発信する活動が十分でないと思われるため、高千穂ブランドの醸成に向けては、高校を起点とした、戦略的な情報発信に注力する必要があると思う。</p> <p>◎コロナ渦のために制約があった項目については「低評価」ではなく「評価不可」だと思います。そのような中、工夫しながらよく頑張っておられたと思います。</p> <p>◎こちらに限られた中での取り組みとなり、中止となった行事も多く例年の取り組みができない状況ですが、きちんとできることは対応できていると思います。地域のボランティア活動など明るい話題も多くありましたので、いつでも再開できるよう準備をお願いします。</p>
--	--	----------------------------	--	--

令和2年度 学校関係者評価表

<重点目標と主な達成手段>

A：充分達成（80%以上）

B：ほぼ達成（79～60%）

C：やや不足（59～40%）

D：全く不足（39%以下）

評価項目 評価指標・目標	主な取組	成果・課題・改善策	自己評価	学校関係者評価コメント	評価
<b>3 保健・環境の充実</b>  ①いじめ・体罰のない学校 ・高いアンテナ ・組織的で迅速な対応  ②人権教育の推進 ・系統的な人権学習  ③教育相談の充実 ・情報の収集、発信 ・教育相談情報共有会 ・ケース会 ・スクールカウンセラー、 外部機関との連携  ④環境美化・整備の充実  ⑤健康安全教育の推進 ・自己管理、危機管理能力 の育成  ⑥特別支援教育の推進 ・サポート体制の確立 ・通級による指導の推進	① 1 相談旬間、高校生活アンケート(3回) 2 高校生活アンケート・アセスを分析・活用、 生徒理解や支援に必要な情報を共有 3 学年会、運営委員会、教育相談情報 共有会、ケース会、教科担任会にて いじめや不登校問題の早期発見に努 め、生徒指導部や保健教育相談部を 中心に連携して組織的に対応	○週1回情報共有会を実施するなど、連携を密 にし、最新の情報を可能な限り共有すること で早めに対応することが出来た。 ○4月～5月に実施する相談旬間では、短縮授 業にして面談時間を確保している。 ○入力、集計をコンピュータで行うことで迅速 な処理、分析ができています。	A	◎剣道場のLED化は早急に全面 完了させることを要望します。  ◎SNSを利用したコミュニケー ションが増加する中、望ましい人 間関係を考えるために、人権教育 などの学習機会を今後も確保し て欲しい。  ◎コロナ禍での取組の推進に 苦慮された面が多くあったと思 いますが、そのような状況の中 でも、代替えの事業を計画するな ど、できることを実施されたこと は高評価に値すると思います。 今年度の経験を次年度以降の 取組にぜひ生かしていただきた いと思います。  ◎高千穂高校の生徒たちはしっ かりやれていると思います。  ◎学校からのコロナ発生がなく、 お疲れ様でした。生徒を含め学校 関係者の皆さんが取り組んだ結 果だと思います。引き続き取り組 んでいただければと思います。	A
	② 1 人権学習内容 ・1学年…人間関係作り ・2学年…さまざまな差別 ・3年生…進路に関する差別	○計画的に実施できた。 ●いじめやかからかい等の事例は少ないが、根絶 には至っていない。また、人権感覚につながる 指導を全職員で日頃から行う意識をさらに高 める必要がある。	B		
	③ 1 「教育相談だより」の発行 2 教育相談情報共有会を週に1回実施 3 相談室、カウンセリングルームの環 境整備 4 スクールカウンセラーの拠点校 ・生徒との面談を継続的に実施	○年間4回発行。クラス掲示、保護者へ配布 ○教育相談情報共有会を確保して必要な対応を 関係職員で話し合い、対策を講じている。  ○継続的な関わりは、生徒だけでなく、職員に も専門的なアドバイスをもらえるため、非常 に良い効果がある。	A		
	④ 1 施設設備の状況把握 2 計画的な修繕 3 剣道場照明LED化 4 プール附属棟屋根改修 5 学校及び生徒寮におけるトイレの 洋 式化や手洗い場の自動水栓化 6 G I G Aスクール構想に基づくネ ッ トワーク構築や各種機器の配備 7 大雨、台風による災害への県教委と 連携しての対応 8 師弟同行による清掃の徹底 9 ゴミの分別・捨て方の徹底  10 農場内の環境美化 →実習棟、各倉庫、農場周辺の清掃	○学校施設の安全や教育環境の改善が図られ た。 ○学校及び生徒寮において衛生環境の改善が図 られた。 ○ICT活用教育活動の環境整備が図られた。 ○災害発生後、迅速に対応したことで、教育活 動に大きな影響は及ぼさなかった。 ●2度崩壊した第1グラウンド法面は災害査定 等により改修工事完了までに日時を要し来年 度に繰り越すことになった。 ●経年劣化・老朽化で要修繕箇所増加が課題。 ○始まりと終わりには礼法指導も取り入れ、職 員・生徒で積極的に清掃に取り組み、校内の美 化に努めることが出来た。 ○ゴミの捨て方について生徒・職員にアンケ ートを取る等しつつ校内の環境美化に努めた。 ○年間を通じて農場内の環境整備に努めること ができた。	A		

※次ページへ続く

	<p>⑤</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 日常生活において、手洗い・うがい・マスク着用・換気等の健康を守るための習慣を身につけさせる。</li> <li>2 毎朝の検温を徹底させ、健康状態確認カードを記入することにより、体調確認を習慣化させる。</li> <li>3 心身の健康に関わる講座（性教育やいのちの教育週間の取組）を実施し、学校生活や将来に役立てる。</li> <li>4 生徒、職員、保護者への啓発と情報提供を適切に行うため、ほけんだよりを発行する。</li> <li>5 小中学校を含む地域や関係機関との情報共有を行う。</li> <li>6 農場における安全教育の推進 →農業機械の点検整備・修繕の実施 →安全教育（機械研修）の実施</li> <li>7 環境に配慮した農畜産物の生産 →農薬の使用量の低減・ドリフトの防止に努める</li> </ol>	<p>○保健委員による日々の呼びかけにより、教室の換気、昼食時のマナーなど意識して取り組ませることができている。</p> <p>○コロナ対策委員会を通して、学校生活・行事などに関して、感染症対策のための取り組みを話し合うことができた。</p> <p>○「いのちの教育週間」の取組では、放送部、書道部の協力で、視覚的・聴覚的な働きかけができ、生徒が命と向き合う機会に効果的であった。まとめとして行った「一行詩」では、生徒の感受性や普段表現しない考えや想いを知ることができた。生徒の取り組みもよく、県の「いのちの声コンテスト」では最優秀賞を含めて複数入賞することができた。</p> <p>○小中学校の養護教諭部会に参加し連携を図っている。</p> <p>○農業機械の点検及び修繕等を随時進めることができた。</p> <p>●作業機を使用した事故が発生した</p> <p>○ドリフトに配慮した農薬散布、残薬の適正な処理を実施できた</p>	A			
	<p>⑥</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 高千穂町ネットワークセンター準備室との連携を密にし、適宜、ケース等を実施。</li> <li>2 「通級による指導」の計画的実施</li> </ol>	<p>○校内、関係機関ともに共通理解や情報を共有して対応することができている。今後も高千穂町ネットワークセンターとの連携を図り、迅速で円滑に取り組んでいきたい。</p> <p>○通級においては、該当生徒のコミュニケーション能力の向上が見られ、進路決定にも役立てることができた。</p> <p>●来年度に向けての「通級による指導」体制の見直し、構築が課題である。</p> <p>○「通級による指導」の意義や内容について全職員に知ってもらうための研修内容の充実に努めていきたい。</p>	A			

令和2年度 学校関係者評価表

<重点目標と主な達成手段> A：充分達成（80%以上） B：ほぼ達成（79～60%） C：やや不足（59～40%） D：全く不足（39%以下）

評価項目 評価指標・目標	主な取組	成果・課題・改善策	自己評価	学校関係者評価コメント	評価	
<b>4 地域・保護者との連携</b>  ①定員確保(入学者増)  ②幼保、小、中、中等、特支、高連携 ・あいさつ運動(防犯見守り活動) ・食育交流事業等  ③広報活動の充実 ・HPの更新、高千穂高校だよりの発行  ④PTA活動の充実  ⑤地域(行政・企業等を含む)との連携・交流の促進 ・地域の教育資源の活用  ⑥同窓会活動との連携  ⑦コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の推進	①	1 高校説明会(各中学校)  2 オープンスクール	○各中学校の説明会に参加。高千穂中へは説明会以外に街づくりLABOの説明についても行わせてもらい、積極的に働きかけた。 ○当初7月に予定していたオープンスクールをコロナの影響で延期し、内容を変更して普通科・経営情報科については9月、生産流通科は10月に実施した。	A	◎高千穂高校が変わろうとしている姿が最もPRできる項目です。次年度以降についても引き続き人的・経済的支援の強化を要望します。 ◎高校だよりは地域の回覧板での反応も良かった。 様々の課題があると思うが、動画による情報発信についても検討していただきたい。 ◎コロナ禍での取組の推進に苦慮された面が多くあったと思いますが、そのような状況の中でも、代替えの事業を計画するなど、できることを実施されたことは高評価に値すると思います。 今年度の経験を次年度以降の取組にぜひ生かしていただきたいと思います。 ◎>>●実質的な生徒募集につながっていない。 これまでにも様々な取組を実施しているが、十分な成果が得られていないことを考慮すると、広報活動の抜本的な見直しの必要があると思われる。既存の取組に加え、生徒募集に直接的につながる戦略的な(5W1Hなども意識して)情報発信に取り組むことが必要だと思われる。主たる取組である高校説明会やオープンスクールについては、客観的な効果検証を行い、中学生達に「通いたい」と思わせる見せ方の工夫も求められていると思う。	
	②	1 朝の見守り活動への全校生徒参加 2 農場部における学科間連携・学校間連携・校種間連携、農福連携の充実 ・苗物販売、ペットボトル販売、農場祭、食育交流活動、花育活動、茶育活動、 ・支援学校との交流実習(5回) ・交流授業(3回)	●今年度は朝の見守り活動は実施できなかった。 ●コロナのため、臨時休校となり春の苗物販売・野菜の種まきは、職員での対応となった。年間を通じて、校外での各種活動の中止や自粛、時間短縮により満足のいく成果を上げることが出来なかった。特に、接客形式の販売実習等は苦労した。	A		
	③	1 ポスター・パンフレットの作成  2 「高千穂高校だより」の発行  3 HPの更新 4 報道機関への取材呼びかけ  5 農場部による情報発信	○デザインを数年ぶりに大きく変更した。郡内いたるところに掲示を依頼。新しい高千穂高校のアピールに繋がった。 ○印刷業者にデザインを発注。例年とは違うデザインで講評であった。来年度については、HPの更新等に力を入れたい。 ●SNSの活用等については、課題が多い。 ○多くの取材に来てもらった。 ●実質的な生徒募集につながっていない。 ○中学生・保護者を対象とした農場説明会を実施することができた ○農場用のリーフレットを作成し農場祭や農場見学の際に配布することができた。 ●活動自粛により情報発信の機会は少なかった。	B		



			<p>また、令和3年度以降は、LABOのオープン、3町での支援策の具体的な検討、魅力化コーディネーターの採用などの取組も始まるため、それらを活用し、生徒募集につながる取組を推進すべきだと思う。</p> <p>&gt;&gt;〇デザインを数年ぶりに大きく変更した。</p> <p>新しいデザインが非常に好評であると思われる。また、西臼杵郡内での至る場所で目にすることができ、効果のある広報活動ができていていると思われる。</p> <p>◎ポスター、パンフレット、高校便り等の内容がとて良くなっていたと思います。LABOの構想はとて良いと思いました。ぜひ工夫して稼働率を上げていただきたいと思います。</p> <p>◎地域との連携では「助け合いマルシェ」「清掃活動」など、ボランティア活動において、素晴らしい行動であったと思います。地域の明るい話題として、地域の人のみならず、観光でも訪れた人に喜ばれるのは当然。</p> <p>見守り活動ができなかったのは残念です。ポスターのデザインについては、個人的にも気に入っています。</p> <p>「高千穂高校魅力向上推進委員会」が設立され、すぐにいい結果が出ませんが、生徒数の減少が止まることを期待して「B」としました。</p> <p>※次ページへ続く</p>
--	--	--	--

	④ 1 P T A活動への会計面からの支援 2 P T A活動において活用できる県の事業の紹介 3 P T A関連行事への出席率アップ	●生徒の減少に伴い、P T A会計等の収入減少が続いている。予算の有効活用を図るために工夫を重ねていく必要がある。 ○P T A活動において活用できる県の事業を紹介し、3年生への思い出づくりに寄与した。 ●コロナの影響で、P T A関連行事のほとんどが実施できなかった。	B			
	⑤ 1 高千穂町を中心とした本校の魅力向上についての議論 2 地域との連携 ・ペットボトルの製造、郷土料理作り、農場生産物を利用した新商品開発、品評会への参加 3 保護者との連携→農場祭	○西臼杵3町による魅力向上推進委員会を立ち上げ、本校の応援体制が整いつつある。今後は、校内プロジェクトを中心に本校魅力の向上に向けた議論を活発化させ、三町との連携深化に努めていく。 ○地元企業と連携した活動を実施することができた。 (ペットボトルの製造販売、郷土料理研修会、イチゴジャム・黄福饅頭の製造・販売、釜王) ○規模縮小・時間短縮して実施することができた。(飲食バザー・試食会等は中止した。)	A			
	⑥ 1 同窓会活動との連携 2 会計面を中心とした支援	●コロナの影響により、同窓会関連事業のほとんどが実施できなかった。学校行事の中で同窓会としてできることを提案するなど、更なる活動の充実のための支援を行う必要がある。 ○同窓会会計事務の適正処理を行った。	B			
	⑦ 1 学校運営協議会 2 地域連携活動の支援・検証 3 I C T街づくりL A B Oの整備	●協議会の開催数が2回と昨年より減少した。 ○研修会など、学校職員と地域の方々との意見交換の場は昨年より増加した。 ○生徒の自走的な活動がみられた。昨年啓発を支援した効果があったと見てよい。 ●生徒の能力伸長と進路実現の見える化が必要 ○L A B Oが完成し、地域との連携や遠隔講義など新たな教育環境が整った。 ○L A B Oをいかにして地域の方に活用してもらうか、学校と地域がL A B Oを活用してどのように協働するかが今後の研究課題である。	A			